

「生理の貧困」行政は支援を

経済的な理由で生理用品が購入できない「生理の貧困」問題が指摘されている。県内でも子ども食堂の運営団体が無償配布したり、公立学校の保健室などで貸し出ししたりしているが、十分とは言いがたい。学校現場からは行政の支援を求める声が上がっている。

【辻本知大】

コロナも影響

県内で子ども食堂を運営する公益財団法人すみれ学級(大分市)は2018年から食堂を利用する女子児童・生徒に生理用品の無償配布を始めた。生理の貧困に関する海外の報道や、長崎県で起きた女子小学生がコンビニで生理用品を万引きした事件を知った

ことがきっかけだ。

子ども食堂で夕食を

食べたり、勉強を教え

たりしている小・中学

生に生理用品を配る。

同法人の推計では、県

内には生理用品に困る

小・中学生は約240

0人いるという。

新型コロナウイルス

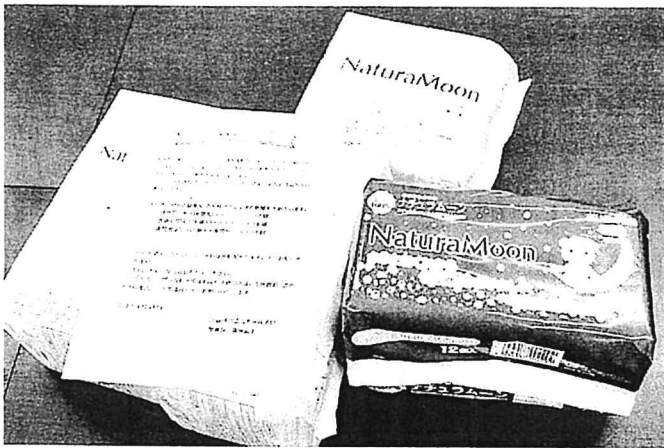
の影響で経済的に困窮

する世帯が増えるなか

「友達から聞きました。私も頂けますか」と問

子ども食堂運営団体が無償配布

「私も」「助かる」の声



すみれ学級が配布する生理用品。メーカーから無償提供されている

い合わせも相次ぎ、20年は延べ約360人が受け取り、21年は同約400人に配布する見込みという。

母子家庭の40代女性

は「コロナの影響でア

豊後大野市も来月、全小中学校で

ルバイトの勤務時間が減り、生活が苦しいが、自分と娘の生理用品を買わないわけにはいかない。無償配布は助かる」と打ち明けた。

豊後大野市は、県内

県内の各学校でも生理用品は一般備品として購入し、保健室に常備し、貸し出しなどがない。無償配布は助かる」と打ち明けた。

豊後大野市は、県内

で初めて全市立小中学校(18校)の保健室などで生理用品の無償配布を7月から始める。同市教委の担当者は「すみれ学級などの取り組みを知り、無償配布を始めるといい。保健室の他、女子トイレにも置き、困っている子が周りを気にせず持ち帰られるようにしたい。生理用品がないという理由で不登校になるといったことを防ぎたい」と話した。

コール消毒液の経費負担が増えており、生理用品の購入に予算を充てられないところもあるという。

県内の小学校の養護教諭は「毎月のように『忘れた』と言って、生理用品をもらいに来る子がいる。行政の支援が必要だ」と話す。県教委の担当者は「困っている子どもがいることは把握している。どういう対応ができるか検討している」と語った。